

“鎌倉楽しむ会”
“令和5年“霜月”

大巧寺～鶴岡八幡宮～鎌倉国宝館 ～建長寺～長壽寺の散策

- ◆ 開催日 : 令和5年11月3日（金・祝）
- ◆ 集合場所 : JR 線 鎌倉東改札口
- ◆ 集合時間 : 午前9時30分
- ◆ 解散時間 : 午後3時30分（JR 北鎌倉駅）
- ◆ 参加費 : 500円（資料代、保険料含む）
- ◆ 飲食費・交通費・拝観料などは個人負担

JR 鎌倉駅東口／大巧寺／日蓮辻説法跡／宇津宮辻子幕府跡／妙隆寺／
大佛次郎旧宅／若宮大路幕府跡／畠山重忠屋敷跡／鎌倉国宝館／白旗神社／
由比八幡遥拝所／鶴岡八幡宮若宮・舞殿・本殿／丸山稻荷社／
二十五坊跡／巨福呂坂／圓應寺／建長寺／長壽寺／北鎌倉駅（解散）

1, 大巧寺（だいぎょうじ）

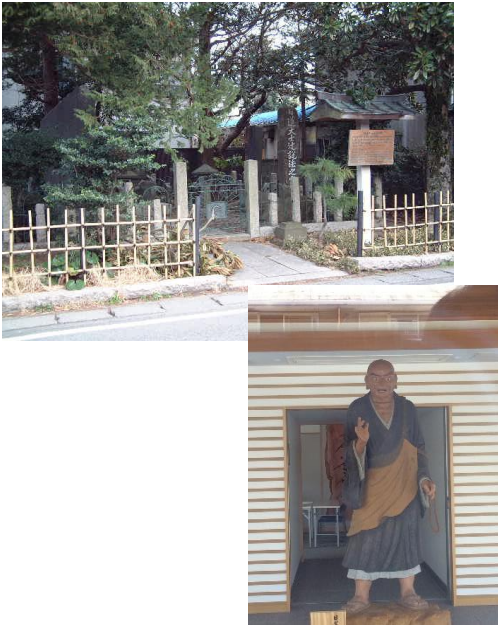


・日蓮宗系単立。山号は長慶山（ちょうけいざん）。開山は日澄（にっしょう）。「おんめさま」の名で親しまれ、安産祈願で有名な寺。天文元年（1532）、第五世日棟（にっとう）が、難産で死んだ秋山勘解由（かげゆ）の妻の霊魂を鎮めるため、産女（うぶめ）霊神として奉ったことによる。」もともとは十二所（じゅうにそ）にあって、大行寺という真言宗系の寺院だったが、源頼朝がこの寺で軍議の

後、大勝を収めたことにちなみ、大巧寺と改名したと伝えられる。若宮大路沿いに「頼朝の戦評定所（いくさひょうじょうしょ）の石碑があるのはこのためである。

・また、時の住持が妙本寺（みょうほんじ）にいた日蓮に帰依したため、日蓮宗に改宗したともいう。檀家を持たず、安産祈願の寺として存在する全国でも珍しい寺院である。

2、日蓮上人辻説法跡



- ・日蓮が辻説法を行ったとされる場所です。小町大路にあり、日蓮はここで法華經（ほけきょう）の教えを熱心に説いたという。
- ・震災、干ばつ、疫病などの原因は他宗にあるとして、四箇格言（しかかくげん）を用いて他の仏教宗派を激しく批判した。
- ・その発する言葉は、真言亡国（しんごんぼうこく）、禅天魔（ぜんてんま）、念仏無間（ねんぶつむげん）、律国賊（りるこくぞく）であった。
- ・跡地には石碑と腰掛け石が立ち並び、明治時代の日蓮宗学者の田中智学（たなかちがく）が腰掛け石を道の反対側から移し周囲を整備した。

3、宇津宮辻子幕府跡



- ・二の鳥居から鶴岡八幡宮に向かって百衲ほど行った右側、雪ノ下カトリック教会付近一帯と推定され、現在は、宇都宮稲荷が祀られている。名前は、下野（現在の栃木県）の宇都宮朝綱（うつのみやともつな）に由来します。朝綱は宇都宮二荒山神社の神職で武士。源頼朝の時代に屋敷を構え、宇都宮より神霊を分霊してこの稲荷を祀ったとされている。
- ・鎌倉時代には、町屋のほかにも有力御家人が屋敷を構えていたと考えられている。
- ・「宇津宮辻子」は、かつては若宮大路と東側の小町大路を結ぶ小路のことと考えられていたが、近年は、若宮大路の東側に南北に通る小路とみなされている。

- ・嘉禄元年（1225）北条政子が亡くなると源氏三代の政権は終わった。鎌倉三代執権となった北条泰時（ほうじょうやすとき）は、大倉からこの地に幕府を移し、この新庁舎で、京の九条家から迎え入れた「藤原頼経（ふじわらよりつね）の元服式を行い、鎌倉幕府四代将軍に据え政務が行われた。
- ・また、貞永元年（1232）8月には、三代執権北条泰時は武家政権のための法令（式目）である「御成敗式目」を制定した。この御成敗式目は、足利尊氏も規定遵守し、式目の規定には女性の御家人も認めており、戦国時代には井伊谷城主井伊直虎を誕生させている。徳川家康も学び江戸時代まで法令の有効性は続いた。

4、妙隆寺（みょうりゅうじ）



・日蓮宗。山号は叡昌山（えいしょうざん）
開山は日英（にちえい）。本尊は日蓮。小町大路沿いの「日蓮上人辻説法跡」の近くにある。有力御家人の千葉常胤（ちばつねたね）の子孫胤貞（たねさだ）の別荘跡に創建されたため、千葉屋敷とも呼ばれる。

・至徳二年（1385）、胤貞が、下総の中山（現千葉県市川市）法華経寺の日英を迎え、七堂伽藍を建立したと伝えられる。寺は鎌倉における中山門流の中心となった。

・第二世日親（にっしん）は、日蓮上人の教えを厳しく守り布教すると同時に他宗の排除を室町幕府に求めた。そのため捕らわれの身となり拷問を受けた。熱く焼けた鍋を頭にかぶせられても信念を貫いたと言われ、その拷問に耐えたので「鍋かむり日親」とも呼ばれた。

5、若宮大路幕府跡・大佛次郎旧宅



・鎌倉時代の嘉禎2年（1236）から元弘3年（1333）の幕府滅亡まで、98年間、鎌倉幕府将軍「鎌倉殿」の御所「幕府」が置かれた場所である。



・大正9年（1920）築。茅葺屋根の和風平屋建築の大佛次郎旧宅。

・数年前までは「大佛次郎茶亭」として鎌倉文士の交流の場としても使用されていた。

6、畠山重忠旧跡



・坂東武士の鑑として崇敬される武将。忠義の篤く、質素を好み、礼儀正しく廉直、桁外れの怪力で源平合戦の“一ノ谷の逆落とし”では愛馬を担いで崖を降りたというエピソードもあります。

・頼朝の先陣を務め、また、静御前の舞では「銅拍子」を担当するなど雅な武人であったという。北条時政の謀略により、息子の畠山重保共々一族が誅殺されてしまうのです。

* 鶴岡八幡宮 境内図



7, 鎌倉国宝館



- ・ 鶴岡八幡宮の境内に建つ歴史・美術博物館。昭和49年（1974）に、財団法人氏家浮世絵コレクションを館内に設立し、肉筆浮世絵百数十点のコレクションも保管・展示している。
- ・ 寄託されている国宝には、たとえば「蘭溪道隆像」（建長寺、絵画）、「古神宝類」（鶴岡八幡宮、工芸）などがある。
- ・ 保存点数は絵画・彫刻・工芸・書籍・古文書・考古資料など約九百件、四千五百点にのぼっている。

8, 白旗神社



- ・ 白旗神社は、正治2年（1200）、朝廷から「白旗大明神」の神号を賜り、源頼朝を祭神として北条政子が創建したと伝えられている（一説には源頼家の創建とも。）。
- ・ もとは上宮の西側にあったが、明治18年（1885）、源実朝を祀る柳営社と合祀され現在地に遷された。
- したがって、御祭神は、「源頼朝」と「源実朝」です。
- また、白旗神社は「武衛殿」と称され、掲げられている扁額は、島津藩の「島津久光」の揮毫と伝えられている。

豆知識

* 源頼朝の最初の官職と武衛 *

「武衛」とは兵衛府の唐名で、「兵衛府」は天皇や皇族の近侍・護衛のための官庁。
兵衛府には、佐兵衛府と右兵衛府があった。

- ・ 平治元年（1159）12月の「平治の乱」で初陣を果たした源頼朝は、一時「従五位下・右兵衛権佐（うひょうえごんのすけ）」に任じられた。流人時代の頼朝は、この官位をもじって「佐殿」（すけどの）と呼ばれていた。
- ・ 平清盛に敗れたことにより、わずか15日で解官されるが、「吾妻鏡」では、頼朝が建久元年（1185）に「平宗盛」を捕らえた勲功により従二位に叙されるまで。頼朝のことを「武衛」と呼んでいる。
- ・ 頼朝は建久元年（1190）権大納言に任じられてから「大納言家」、右大将に任じられれば「右大将家」、建久3年（1192）7月26日「征夷大將軍」の辞令を受けてから「將軍家」となっていく。

9, 由比八幡遥拝所



* 「由比八幡」創建の謂れ *

・長元元年（1028）、房総半島の平忠常（たいらのただつね）が謀反を起こすと、朝廷は検非違使（けびいし）平直方（たいらのなおかた）らを鎮圧軍として出陣させた。だが直方が鎮圧に失敗したため、改めて源頼信・頼義（よりのぶ・よりよし）父子を派遣する。忠常は源頼信の元家臣であったので、長元4年（1031）には降伏した。

・この時、源頼義の武勇に感じた平直方は、娘の婿として迎え入れ、彼に鎌倉の屋敷を譲る。ここから、源氏が武蔵国に進出する端緒となるのです。

また、この直方の子孫らは伊豆方面を開拓し、後に「北条」を名乗る。北条氏と源氏との関りは、この時までさかのぼり、後に源頼朝が鎌倉幕府を開く原点となっていくのです。

・源頼義は前九年（ぜんくねん）合戦（1051～1062）で陸奥国（むつのくに）の棟梁・安部貞任（あべのさだとう）を滅ぼした。康平6年（1063）、その帰途に彼は相模守として、鎌倉由比郷に「石清水八幡（いわしみずはちまん）」を勧請し由比若宮（ゆいわかみや）を建立する。これが今の「元八幡宮」となって、それをこの場所からの遥拝する所なのです。

・鎌倉に屋敷を構えた「頼義」は、甘縄神明宮（あまなわしんめいぐう）に祈願し、誕生したのが、後に石清水八幡宮で元服する「源八幡太郎義家（みなもとののはちまんだろうよいえ）」である。

・永保元年（1081）に、源義家はこの由比若宮を修理したと伝わり、源氏は着実に鎌倉から武蔵国に進出していった。

10, 鶴岡八幡宮若宮・舞殿・本殿



・御祭神は応神天皇（おうじんてんのう）、比売神（ひめがみ）、神功皇后（じんぐうこうごう）。市の中心部にあって、日本を代表する八幡宮の一つ。

・源頼義（みなもとのよりよし）が源氏の守り神として京都の石清水八幡宮を由比郷（ゆいごう）鶴岡に勧請（かんじょう）したことに始まる（現在の材木座にある由比若宮＝元八幡）。

・永保元年（1081）源義家が修復、治承4年（1180）に鎌倉入りした源頼朝が、現在の地

に遷座（せんざ）して鶴岡若宮と称した。社前から南へ伸びる若宮大路（わかみやおおじ）には、中央に段葛（だんかずら）と呼ばれる一段高くした道があり、これは御台所政子の安産を祈願して、寿永元年（1181）、頼朝が造らせた参道である。鶴岡八幡宮寺は建久二年（1191）に焼失したが、すぐに若宮（下宮）を再建。このとき本宮（上

宮）が創建され、現在のような上下両宮の姿となり、建久4年（1193）には下拝殿（舞殿・まいでん）が新造された。この時の建造にも浅草の宮大工を鎌倉に呼び寄せ建築させている。

- ・源氏の守り神として鎌倉幕府から崇敬された鶴岡八幡宮寺は、御家人らが各地に派遣されるに及んで、広く武門の神として分霊され全国に知れわたった。その後、足利氏、豊臣氏、徳川氏からも篤く崇敬された。

- ・現在の若宮は寛永元年（1624）、徳川幕府二代将軍徳川秀忠によって、本宮は文政十二年（1828）、十一代将軍徳川家斉（いえなり）によって再建造された。

- ・神事では、小笠原宗家により、狩装束（かりしょうぞく）をまとった武者が馬に乗って走らせながら、約七十メートルごとに立てられた三的（みつまと）を鎗矢（かぶらや）で次々と射る流鎗馬（やぶさめ）神事が勇壮である。

- ・また立秋のころのぼんぼり祭、冬の御鎮座（ごちんざ）記念祭は、鎌倉の風物詩である。春の鎌倉まつりでは、舞殿で「静の舞（しずかのまい）」が奉納される。

- ・「隠れイチョウ」の名で知られる大石段の脇の大イチョウは、源実朝を危（あや）めるため八幡宮別当公暁（こうぎょう）が、この樹の陰に隠れていたという伝説があるが、平成22年（2010）3月強風のため倒伏した。国指定史跡

11、丸山稲荷社



- ・鶴岡八幡宮の西側の小高い（丸山）の上にある神社。鶴岡八幡宮が鎮座される以前からあったといわれている神社で、大臣山に祀られていたが、鶴岡八幡宮造営の際に現在地へ遷されたといわれている。

- ・そのため、「産土（うぶすな）神社」とも呼ばれている。

- ・現在の本殿は、室町時代の明応9年（1500）に造営されたものといわれ、一部の部材には応永5年（1398）に初めて檜皮葺（ひわだぶき）で造替されたとの記録が残されている。

- ・江戸時代に柳宮社（源実朝を祀る社）と改称され、明治時代になり、丸山稲荷社の本殿となり、御祭神の源実朝は白旗神社に合祀されたのです。

～ 食 屋 ～



スペイン料理
レストラン **ヴァレンシア**



* 神奈川県立近代美術館 鎌倉別館



- ・昭和26年（1951）に開設された日本で最初の公立近代美術館が、鶴岡八幡宮の平家池のほとりに建てられた。設計は、二十世紀を代表する建築家ル・コルビュジェの弟子、板倉準三でした。
- ・しかし、平成二十八年（2016）、老朽化のため惜しまれながら閉館した。
- ・本館機能は「葉山館」に移され、県立近代美術館は「鎌倉別館」との二館体制となっている。

12、二十五坊跡



- ・鶴岡八幡宮の西北、小袋坂の曲がり角辺り一帯は、古くは御谷（おやつ）と呼ばれ、幕末まで鶴岡八幡宮寺を管理する供僧が住し、供僧坊（後世十二坊となる）があった。
- ・建久2年（1191）に、供僧二十五口の制が定められ、それぞれの住坊がこの地に建てられた。室町時代には数を減じて一時は七坊までになったが、江戸期には十二坊まで復興した。
- ・昭和39年（1964）、この地域で大規模な宅地造成が行われようとしたとき、貴重な史跡や緑地を守る市民運動が繰り広げられ「御谷騒動（おやつそうどう）」と呼ばれた。この「騒動」は国を動かし、古都保存法制定のきっかけとなった。

13、巨福呂坂



- ・鶴岡八幡宮の裏手から北鎌倉へ抜ける現在の巨福呂坂（こぶくろざか）は、明治になって開かれた。
- ・旧道は、北条泰時が造ったといわれ、鶴岡八幡宮寺脇から西側の尾根を超えて圓應寺（えんのうじ）の前から建長寺へ出る道だった。現在は途中で寸断されている。国指定史跡。

14、圓應寺



- ・臨済宗建長寺派。山号は新居山（あらいさん）。開山は智覚禅師（ちがくぜんじ）。創建は建長二年（1250）とされる。
- ・もともとは由比ガ浜方面にあった新居（荒居）焰魔堂（えんまどう）が、元禄16年（1703）の大地震の後、移されたという説もある。
- ・死後に出会う十王を祀っているため、十王堂とも呼ばれている。
- ・本尊の木造閻魔大王坐像は、鎌倉時代の仏師運慶（うんけい）の作といわれ、国の重要文化財。
- ・瀕死の運慶が九死に一生を得て笑いながら彫ったので、像も笑っているように見えるとの伝説から、「笑い閻魔」として親しまれてきた。

15、建長寺



- ・臨済宗建長寺派大本山。鎌倉五山第一位。山号は巨福山（こぶくさん）。
- ・五代執権北条時頼が、宋の蘭溪道隆（らんけいどうりゅう）を開山に招き開いた。日本で最初の禅専門道場の禅寺。山号は、寺の前を通る巨福呂坂（こぶくろざか）に、寺名は建長9年（1253）創建時の元号（建長）に由来する。地獄谷（じごくだに）と呼ばれた刑場の跡地に建てられた。
- ・蘭溪道隆は宋の厳格な禅風により、千人を超える修行僧を指導した。
- ・そのとき使われた自筆の指導書「法語規則（ほうごきそく）」が国宝として残っている。
- ・道隆は66才で示寂、後宇多天皇から「大覚禅師」という日本初の禅師号を与えられた。
- ・禅師死後も建長寺は、北条氏、足利氏に保護され、隆盛を誇った。

- ・境内は国指定史跡。総門を入ると楼上に五百羅漢（らかん）などを安置した三解脱門（さんげだつもん）（三門-国重文）があり、その先に本尊地藏菩薩を祀った仏殿（国重文）、儀式法要を行う法堂（はっとう-国重文）、唐門（からもん-国重文）、方丈が並んでいる。
- ・鎌倉時代末期には三門、仏殿、庫裡、僧堂、衆寮（しゅりょう）などが回廊によって結ばれ、庫裡と僧堂、浴室と西浄（せいちん-便所）が左右対称に並び、中国風の配置になっていた。
- ・この建長寺の建築法が日本の禅寺のもととなっているが、震災や大火で焼失し、現存する建物は江戸時代に沢庵和尚（たくあんおしょう）の進言などによって移築再建、復興されたものである。
- ・道隆が宋から種を持ってきたと伝えられる七本のビャクシンの巨木が往時を偲ばせる。
- ・三門右手の鐘楼には時頼の寄進でできた梵鐘（ぼんしょう-国宝）があり、道隆による銘文が浮き彫りにされている。
- ・道隆作の背後の庭園は国指定名勝で、日本の禅宗庭園の源でもある。
- ・裏山の中腹には鎮守の半僧坊（はんそうぼう）大権現が祀られており、毎月十七日に祭礼が行われている。
- ・道隆が、野菜の皮やヘタを無駄にしないように発案したと伝えられる「けんちん汁」は「建長汁」が転訛し、そう呼ばれるようになったといわれている。

16, 長壽寺



- ・臨済宗建長寺派。山号は宝亀山（ほうきさん）長壽寺。
- ・開山は古先印元（こせんいんげん）禅師。創建の年代には諸説はあるが元享三年（1323）から建武三年（1336）のころ建てられたといわれている。
- ・寺の開基は足利尊氏であり、その後、息子である鎌倉公方（くぼう）足利基氏（もとうじ）が尊氏の菩提を弔うため、大規模な七堂伽藍を建立したといわれている。
- ・境内奥には尊氏の遺髪を埋めたと伝えられる変形の五輪塔がある。
- ・現在は季節限定で雨天以外の週末に限り公開されている。



長壽寺のお庭



足利尊氏の五輪塔

完

memo